

# 平成 23 年度 第 12 回石狩市行政評価委員会

日時：平成 23 年 7 月 27 日（水） 9 時 00 分～

場所：市役所 3 階 庁議室

企画經濟部 企画課

# 【会議次第】

1 開 会

2 議 題

(1) 施策評価「公共交通環境の充実」について

4 その他

5 閉 会

# 平成23年度施策評価シート

第4期石狩市総合計画(戦略計画)における位置付け		1次 評価者 (当該施策 を担当する 部長)	所属	市民生活部
めざすまちのテーマ等	1 安全・安心・快適なまち		職名	部長
施策項目	(3)公共交通環境の充実		氏名	大林 啓二
			TEL	72-3247

## 【1 施策の目的】

公共交通環境をより充実させることにより、快適で便利な暮らしを送ることができるまちをめざす。

## 【2 計画策定時の状況】

市内で唯一の公共交通機関である路線バスは、市民の身近な足として生活に欠かすことのできないものとなっているものの、近年、利用者数が減少傾向にあり、採算面で厳しい路線が次々に廃止されるなどの動きが出ていることから、交通空白地域を生まないようにするための対応が求められている。軌道系交通として検討を進めてきた「モノレール」などの導入については、近年の人口増加の鈍化や、国・地方自治体における財政環境の急激な悪化など様々な要因もあり、事業化の見通しは立っていないものの、本市のまちづくりの方向性を大きく左右することから、引き続き、導入の検討が必要である。

## 【3 成果指標】

	指標の名称					単位	H17実績値	H23目標値
指標1	市内バス路線数					路線	22	22
指標2	路線バスの利用が便利と感じる市民の割合					%	41.1	↗
指標3								
指標4								
	H18実績値	H19実績値	H20実績値	H21実績値	H22実績値	H23目標値に 対する達成状況	H17実績値 との比較	
指標1	21	21	21	21	21	×	×	
指標2	41.1	41.6	45.8	39.9	36.1	×	×	
指標3								
指標4								

○到達、×未達      ○向上、×低下

## 【4 現状把握と今後の方向性】

### (1)現状の評価と課題

市内バス路線数は、近年の急速な少子高齢化に伴う中高生の利用の減少、更には団塊世代の退職や核家族化による若年稼働世帯の流出(転出)等による減少から、今後バス事業者においても事業の採算面から路線の更なる縮小も懸念される中で、現実的な対応として現状の路線数を維持していくことが肝要であり、目標達成は極めて厳しい状況にある。今後は、行政、事業者、利用者(市民)がそれぞれの役割と責務を認識し、一体となって取組みを進めていくことが必要である。一方、路線バスの利便性については、利用者数は減少傾向にあるものの、周辺の環境整備はもとより、老朽化するバス待合所の計画的な補修等を行うなど、市民の満足度を高めていく必要がある。

### (2)施策を取りまく状況の変化(社会環境の変化、住民、議会等からの要望等)

近年の少子高齢、人口減少時代にあって、特に過疎化が著しい浜益区における市民の足の確保は大きな課題であったが、平成18年度まで浜益区内全域をバス運行していた事業者(空知中央バス)が、赤字により撤退することになったため、市は市民要望を踏まえ、平成19年よりスクールバスとの一般混乗をはじめ、浜益滝川間乗合自動車運行事業、更には札幌浜益線を運行する事業者(北海道中央バス)に対し、欠損額の1/2(限度額300万円)を補助するなど、地域住民の交通手段の維持・確保に努力している。

### (3)今後の取り組み方針(改善・改革の方向性)

今後は急速な高齢化の進展に伴い、公共交通の利便性の確保が更に重要となっており、過疎と市街地における交通体系の在り方と併せて、市内バス交通体系についても、行政、事業者、利用者(市民)がそれぞれの役割と責務を踏まえ、中期的かつ総合的な視点から検討が必要である。

**【5 パブリックコメント】**

--

**【6 行政評価委員会意見】**

(1)現状の課題認識に関する意見
(2)今後の方向性に関する意見
(3)施策等に関する評価意見

**【7 行政評価会議（最終評価）】**

(1)重点的に取り組む事項（新に取り組む事業、規模拡大を図る事業等）
(2)見直しすべき事項（廃止、縮小、統合、改善を図る事業等）
(3)その他特記事項

施策名 公共交通環境の充実

	人件費	事業費	総コスト
平成22年度施策コスト	12,804	13,382	26,186 千円

市民一人あたり
429 円

施策の体系		担当課	H22決算					現状の課題 (課長評価1次)	今後の方向性 (課長評価1次)	
			目次No.	事業名	人工 (関係課含む)	特定財源				事業費計
		うち地方債				一般財源				
<b>①バス交通の維持・充実</b>										
1-1	1	地域生活バス路線運行対策事業	市民生活課	0.13	-	-	3,000	3,000	既に当初見込み(600万円)を超える赤字額となっている。	地域住民と路線存続へ向けた取組みを検討していく。
1-2	2	浜益滝川間乗合自動車運行事業	市民生活課	0.45	3,000	-	2,419	5,419	利用者数の維持。	利用者の増へ向けたPRを検討する。
1-3	3	スクールバス混乗事業	市民生活課	0.38	1,698	-	2,269	3,967	・地区により利用者数が減少している。 ・運行時間が制約される。	厚田区の混乗事業については、過疎地有償運送事業との連携に向けた検証を行う。
1-4	4	バス路線関係業務	市民生活課	0.24	-	-	996	996	老朽化したバス待合所の修繕	バス事業者・町内会との連携をさらに密にし、計画的な修繕の実施。
<b>②軌道系交通機関導入の検討</b>										
再掲	5	【再掲】 総合交通体系業務	企画課					-		
<b>③その他</b>										
1-5	6	総合交通体系業務	企画課	0.05	-	-	-	-	・「都市交通MP」で公共交通維持の更なる困難性の指摘。 ・市の交通体系は札幌市の動向に左右される。	北海道、札幌市の交通担当者とは適宜情報交換を行う。
1-6	7	ライフサポート組織育成支援業務	厚田地域振興課	0.15	-	-	-	-	計画的なサポーターの加入促進	新規サポーターの加入促進を進める。
	8							-		
	9							-		
	10							-		
	11							-		
	12							-		
	13							-		
	14							-		
	15							-		
	16							-		
	17							-		
	18							-		
	19							-		
	20							-		
合計				1.40	4,698	-	8,684	13,382		